

イベント・コンテンツ・情報通信 メディアの分析

研究内容

地域の特性の影響下にあたり、独自性を志向したりする文化的なコンテンツやイベントは、全世界あるいは全国を対象とした場合と比較して、定量的な分析が困難であることが多く、その潜在的な魅力を十分に活用できていない場合がある。その困難の主な原因は、対象の数の少なさや繰り返し回数の少なさからくる、データの不足である。そこで、顕在化していないデータの掘り起こしや、伝達手段の効果計測、少量データでも頑健に動作する分析手法について様々な取り組みを試みている。



このテーマに関連するプロジェクト研究所

AiR 研究所

地域・産学連携の可能性

以下のような過去の取り組み事例がある。

- 映画祭(YIDFF)で上映対象に選出される作品の傾向分析
 - 映画祭(YIDFF)における作品の特性と観客数との関係分析
 - 地域の文化・歴史コンテンツ発信サイトにおけるコンテンツ内容とアクセス傾向との関係分析
 - イベント内における利用者の特性に応じた推薦システムの運用
 - 民族学的資料を対象とした画像分析コンペティションの設計
- 上記の例に限らず、データとして活用されていないイベントに関する記録を整理し、分析することや、オンラインコンテンツと実空間での関連を設計するといった形での、地域・産学連携を行いたい。



このテーマに関連するSDGs開発目標



工学部 情報通信工学課程 認知科学、知能情報学

井上 雅史 INOUE Masashi

准教授、博士（理学）

執筆論文

"Analysis of the film selection process for a film festival",
The 7th International Workshop on Information Technology for Innovative Services, 2014



KeyWord

イベント分析、コンテンツ流通、メディア受容、地域情報、定量分析、文化、データマネジメント